

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031003	■■■■■	有害事象報告書 Na 値の最悪検査値が 129mEq/L の 為、有害事象は Grade3 になるが、 Grade1 と記載。	CLF にて問い合わせた。 記入ミスである事が判明。	問題なし。

◎ B-1 コース ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031002	■■■■■	有害事象報告書 血小板値の最悪検査値が $2.5 \times 10^4$ の為、有害事象は Grade3 になるが、 Grade4 と記載。	CLF にて問い合わせた。記入ミ スである事が判明。	問題なし。
S031003	■■■■■	有害事象報告書 ヘモグロビン値が投与前検査にて 11.8g/dl、最悪検査値の記載なし。し かし、有害事象の貧血には Grade2 と 記載。	CLF にて問い合わせた。 記入ミスである事が判明。	データセンターの対 応に問題なし。
同上	同上	有害事象報告書 GOT 値の最悪検査値が 33IU/L の 為、有害事象は Grade1 となるが、有 害事象無と記載。	CLF にて問い合わせた。 記入ミスである事が判明。	データセンターの対 応に問題なし。
S031003	■■■■■	有害事象報告書 Na 値の最悪検査値が 138mEq/L の 為、有害事象は Grade1 になるが、有 害事象無と記載。	CLF にて問い合わせた。 記入ミスである事が判明。	データセンターの対 応に問題なし。

◎ A-2 コース ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031003	■■■■■	検査値報告書 U-WBC: 空欄 U-RBC: 空欄 CLF 発行後 U-WBC: 0-1 個/hpf U-RBC: 0-1 個/hpf	CLF にて問い合わせた。記入漏 れであることが判明。	問題なし。

◎ 放射線治療報告書 ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031001	■■■■■	領域リンパ節浸潤の欄に記載なし	CLF にて問い合わせた。記入漏 れである事が判明。	問題なし。

◎ 二期手術報告書 ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031001	[REDACTED]	責任医師:○草 ○一 術者名:○高 ○行	参加医師登録票に記載のない先生が記載。参加医師登録票を訂正追加し提出し直すか、CRF に参加医師登録票に記載のある先生に訂正していただくかを問い合わせた。参加医師登録票に記載のある先生に変更し登録完了。	問題なし。
		手術施行日が B-2 治療中と重なる。 二期手術施行日:2004 年 9 月 23 日 B-2 コース開始日:2004 年 9 月 21 日 同時に手術前検査日にもズレがある。 訂正後:二期手術施行日:2004 年 9 月 13 日	プロトコルでは二期手術施行後に B-2 コース開始となっており、B-2 コースと重なる事はない。 CLF にて問い合わせを行い記入ミスである事が判明。	問題なし。
S031002	[REDACTED]	手術前情報 Mg 値の記載なし	CLF にて問い合わせを行い記載漏れである事が判明。	問題なし。
		手術情報 原発巣領域リンパ節浸潤の転移の詳細(肉眼的)に記載なし。	欄外に「術前 MRI で残存リンパ節腫脹認めず。その為生検を行わなかった」とコメントあり。 この文から肉眼的リンパ節浸潤なしと判断。	問題なし。
		手術情報 原発巣領域リンパ節浸潤の転移の詳細(肉眼的)に記載なし。	欄外に「術前 MRI で残存リンパ節腫脹認めず。その為生検を行わなかった」とコメントあり。 この文からリンパ節浸潤(肉眼的)なしと判断。	問題なし。
		有害事象 出血が Grade3 にチェック  訂正後:Grade 0	手術情報の出血の欄は「少量」となっているも、有害事象報告には Grade3 と整合性がなし。その為 CLF にて問い合わせを行った。有害事象報告書の記入ミスである事が判明。	問題なし。

◎ B-2 経過報告書 ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031001	■■■■■	化学療法後の G-CSF が投与継続中にて CRF が提出された	該当 CRF の提出日を過ぎても CRF が届かなかったため督促状を発行。督促状発行後、速やかに CRF が提出されたが、G-CSF が投与中であった。施設に問い合わせを行った所、B-2 コースの開始日が遅れまだ B-2 期間中である事が判明。 再度 B-2 経過報告書を送付し、期間終了後の再提出を依頼。	問題なし。
S031003	■■■■■ ■■■■■	有害事象報告書 血小板値の最悪検査値が $2.1 \times 10^4/\text{mm}^3$ のため、有害事象は Grade3 となるが Grade4 と記載。 Na 値の最悪検査値が 134mEq/L のため、有害事象は Grade1 となるが有害事象なし と記載。	CLF にて問い合わせを行った。 記入漏れである事が判明。	問題なし。

◎ A-3 経過報告書 ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031001	■■■■■	CPA 投与量:840mg と記載	体表面積 $0.67\text{m}^2$ CPA 投与量 804mg となる。 投与量記載ミスなのか CLF にて確認するも「この量でした」と返事あり。	問題なし。
		検査値 Mg 値の記載なし	CLF にて問い合わせを行い記入漏れである事が判明。	問題なし。
		その他の有害事象 無有のチェックなし	CLF にて問い合わせを行った。 記入漏れである事が判明。	問題なし。
S031002	■■■■■	有害事象報告書 ビリルビン値の最悪検査値が 2.1mg/dl のため、有害事象は Grade2 となるが Grade1 と記載。	CLF にて問い合わせを行った。 記入漏れである事が判明。	問題なし。

◎ 大量化学療法経過報告書 ◎

症例番号	施設名	担当医による CRF の記載	データセンターコメント	事務局検討結果
S031002	[REDACTED]	1 ページ目の右肩に身長・体重・体表面積の記載なし	CLF にて問い合わせを行った。 記載漏れである事が判明。	問題なし。
		有害事象 GOT・GPT それぞれ Grade1 Grade2 と記載あるも、検査値報告書の最悪検査値には記載なし。	CLF にて問い合わせを行った。 記載漏れである事が判明。	問題なし。
		転帰 「移植後 30 日目の経過を記入」と規定があるも 30 日以前のデータを記載。	データセンターのシステムエラーにより、督促状を予定より発行したために、移植後 30 日以前のデータを記載したと判明。 移植後 30 日経過後、記載して再提出いただいた。	システムエラーの再発防止について確認要。
		大量化学療法開始報告書に記載されていた体表面積から計算した DAY-12,-11 の L-PAM 量は「98mg」となるが、実際に投与された量は「96mg」と記載。	CLF にて問い合わせを行った。 96mg の記載漏れである事が判明。	問題なし。

2. 登録手続きについて検討が必要な症例

症例番号	施設名	実際の手続き	データセンターコメント	事務局検討結果
S031001	[REDACTED]	JRSG 登録用紙による JRSG 登録の後、外科治療報告用紙を JRSG 事務局へ送付する前に、臨床試験への症例登録票がデータセンターへ送付された。	症例登録票を受け取った時点では、リスク判定が不可能であったため、施設、JRSG 事務局、およびリスク判定委員と連絡を取り合っており、高リスクであることを確認した。施設での治療開始予定日が翌日であったため、外科治療登録用紙およびリスク判定通知がデータセンターへ届く前に、症例登録手続きを行った*。	データセンターの対応は適切。
S031002	[REDACTED]	RSG 登録前に、臨床試験への症例登録票がデータセンターへ送付された。	施設へ連絡し、JRSG 登録票および外科治療報告用紙の提出を依頼した。同日 JRSG 登録・リスク判定行われ、症例登録手続きを完了した。	
S031007	[REDACTED]	JRSG 登録前に、臨床試験への症例登録票がデータセンターへ送付された。	施設へ連絡し、JRSG 登録票および外科治療報告用紙の提出を依頼した。また、電話連絡から得られた臨床情報を、JRSG 事務局およびリスク判定委員へ伝えた。同日に必要な書類が提出、翌日にリスク判定通知発行後、試験登録手続きを完了した。	データセンターの対応は適切。

\*詳細に関しては、小児がんデータセンター発 第 04001 号通知を参照の事。

資料 3. e-CRF による臨床試験システム  
“Satellite” 使用の手引き

e-CRFによる臨床試験システム

# Satellite

使用の手引き

試験名 : TCCSG 0416

Last Updated 3/25/2005  
Ver. 1.4

## 1. はじめに

Satellite は臨床試験を円滑に進めるためのシステムです。Satellite はデータセンターに導入される[Mother]と、試験参加医療機関に配布される[Shuttle]から構成されます。

本手引きでは医療機関における[Shuttle]の使用方法を説明します。

[Shuttle]とはデータセンターから配布される USB メディアのことです。[Shuttle]には配布された時点で臨床試験データを入力するための画面が格納されています

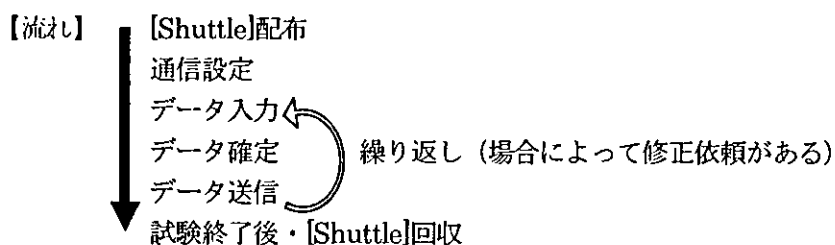
### Shuttle の機能

- ・ データ入力画面を持つ (CRFとしての働き)
- ・ データを保持する (CRF 原本としての働き)
- ・ データのコピーを送信する (定期的なデータモニタリングの働き)
- ・ 保持するデータを暗号化する (データの秘匿化の働き)

[Shuttle]に格納されたデータは CRF 原本である以上、臨床試験依頼者によって訂正されることは一切ありません。また、CRF 原本と送信されたデータが同一であることを保証するため、一旦「確定」されたデータは医療機関の医師によってもデータセンター (または研究事務局) からの許可なく訂正することはできませんのでご注意ください。

訂正はデータセンターからの許可が得られた場合のみ可能となります。そして、訂正されたデータは、再度「確定」された後、臨床試験依頼者へ再送信されます。

[Shuttle]は臨床試験が終了した時点で、臨床試験依頼者が回収します。



## 2. Shuttle 概要

### 2. 1 USB メディアの配布方法

TCCSG 登録完了後、データセンターで必要項目を設定し、施設担当医師まで郵送にてお送りいたします。

### 2. 2 入力する CRF と提出期限

CRF	入力可能時期	提出期限
試験登録 (症例登録、TCCSG 登録時検査値、PSL 先行投与データ)	配布時	Day 8 (または VCR 繰上げ投与日)
リスク判定データ	配布時	Day 9 (または VCR 繰上げ投与日)
患者データ (特記すべき所見・病歴、白血病詳細)	配布時	寛解導入療法 終了/中止後 2 週間以内
先行投与相 有害事象	配布時	
寛解導入療法 A (8~35、36~42、減量・延期詳細)	Day8 登録完了後	
寛解導入療法 B (8~28、29~42、減量・延期詳細)	Day8 登録完了後	
寛解導入療法 検査値・転帰	Day8 登録完了後	
寛解導入相 有害事象	Day8 登録完了後	
早期強化療法 A (1~12、13~21、減量・延期詳細)	予定された Day43	
早期強化療法 B (1~8、MTX 濃度・LV 救済、減量・延期詳細)	予定された Day43	
早期強化療法 検査値・転帰	予定された Day43	
研究終了時 有害事象	予定された Day43	
転院・転医	配布時	随時
有害事象報告書	配布時	

### 2. 3 プロトコール治療完了後

USB メディアを回収し、プロトコール治療が完了となります。回収セットを郵送いたしますので、データセンターまでご返送ください。



### 3. Shuttle の起動と初期設定

#### 3. 1 使用するパソコンの確認

以下の3点をご確認ください。なお、インターネットに接続可能、かつ、Windows2000 または WindowsXP の場合は3. 2にお進みください。

一、USB ポート(写真参照)がついていない場合。



USB ポートがついていない場合、[Shuttle]は使用できません。他のパソコンでの入力をお願いいたします。

二、使用するパソコンは Windows 2000 または Windows XP ではない。  
Windows98/98SE の場合、ドライバのインストールが必要です。

下記のページを参照し、インストール作業を行ってください。インストール方法については下記 URL のページ下部をご覧ください。

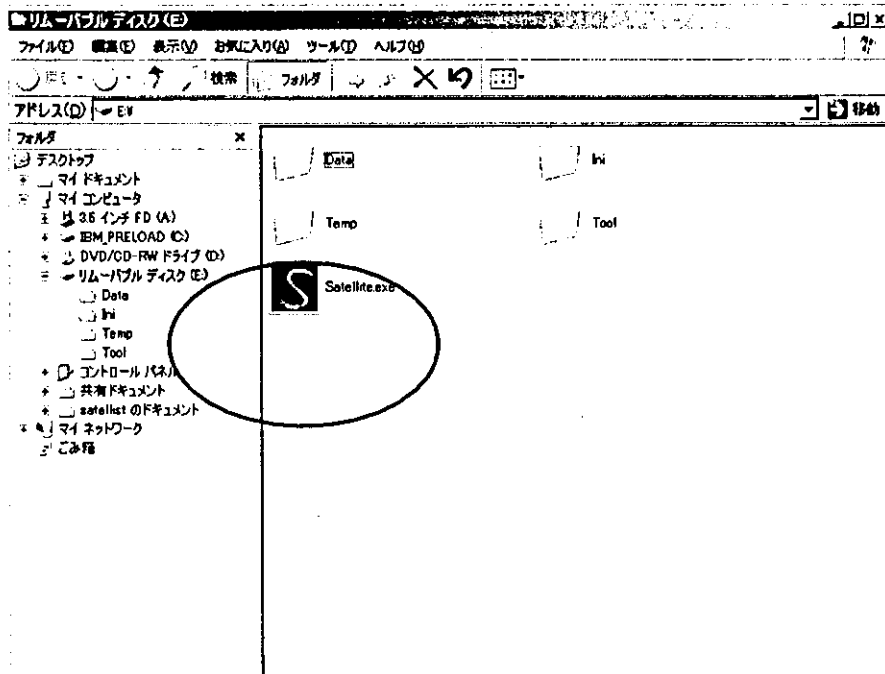
<http://buffalo.melcoinc.co.jp/download/driver/hd/rufc-cu2.html>

セキュリティの関係でドライバのダウンロードができない場合は、データセンターまでご連絡ください。フロッピーディスクにてドライバをお送りいたします。

三、使用するパソコンはインターネットに繋がっていない。  
入力作業後の送信作業は、インターネットに繋がっているパソコンから行ってください。

### 3. 2 Satellite の起動と初期設定

- ① [Shuttle]をパソコンの前面もしくは後面の USB ポートに差し込みます。ノートパソコンでは横、または後面、デスクトップでは前面または背面にあります。その後、エクスプローラを開きます。(windows の設定によっては自動的にエクスプローラが起動します) Satellite.exe というファイルをダブルクリックします。



- ② インターネットにつながっている場合には、自動的に最新情報を取得します。その後ログイン画面が表示されます。[Shuttle]とともに配布されたユーザ名とパスワードを用いてログインします。

③ ログイン後、初回のみ以下の画面が表示されます。

通信設定

データ送信時の設定を行います

メールアドレス

A) SMTP認証(SMTP-AUTH)を使用しない場合(POPBeforeSMTP)

メールユーザ名  
(アカウント名と呼ばれる場合もあります。一般にメールアドレスか、メールアドレスの@より前の部分が使われることが多いようです。日本語もしくはローマ字による設定者のお名前ではありません)

パスワード

POPサーバー名

SMTPサーバー名

B) SMTP認証(SMTP-AUTH)を使用  
 ←チェック時に下記が有効になります。  
この場合A)は入力する必要がありません。

SMTPサーバー名

ユーザ名

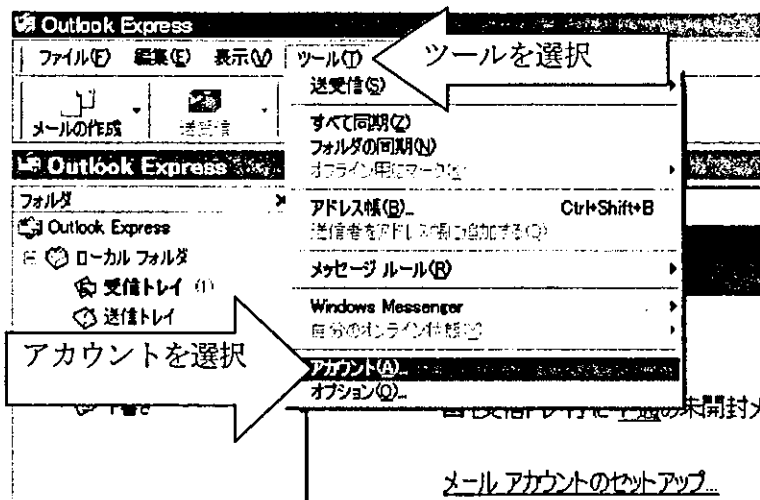
パスワード

設定動作確認 設定保存 閉じる

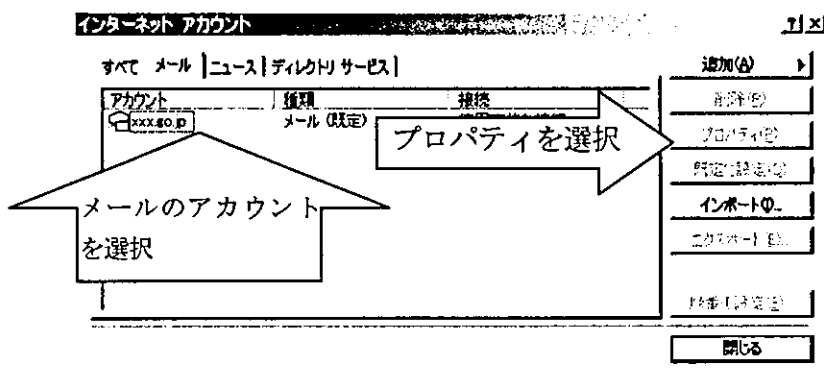
#### \* 通信設定について

院内 LAN によるメールの場合、SMTP-AUTH である可能性があります。通常設定ができない場合やエラーになった場合は管理者に問い合わせ、SMTP-AUTH であった場合は、B にチェックを入れ、上のメールアドレスと下の 3 項目に必要な事項を入力してください。

★通信設定で入力したメールアドレスは、全員で共有して使用します。登録済みの入力者は個別のアカウントで、同じメールアドレスを使用することになります。(意識する必要はありません。)



通常の通信設定はご自身のメーラー（Outlook Express等）の設定を参照して下さい。Outlook Expressの場合、[ツール]・[アカウント]を選択し、メールタブを選択します。該当するものを選択して[プロパティ]をクリックします。さらに、サーバータブを選択すると下記の画面が表示されます。



\*Outlook Express の場合

★Bにはチェックを入れないでください。

aaaaa.go.jpのプロパティ

全般 | サーバー | 接続 | セキュリティ | 詳細設定

メール アカウント

これらのサーバーに覚えやすい名前を付けることができます。(例: 仕事、Microsoft メール サーバー)

aaaaa.go.jp

ユーザー情報

名前(Q): Satellite\_TEST

会社名(O):

電子メールアドレス(M): test@satellite.go.jp

送信アドレス(O):

メールの受信時および同期時にこのアカウントを含める

OK キャンセル 適用(A)

aaaaa.go.jpのプロパティ

全般 | サーバー | 接続 | セキュリティ | 詳細設定

サーバー情報

受信メール サーバーの種類(M): POP3

受信メール (POP3)(O): xxxxx.go.jp

送信メール (SMTP)(U): yyyyy.go.jp

受信メール サーバー

アカウント名(Q): test

パスワード(P): \*\*\*

パスワードを保存する(M)

セキュリティで保護されたパスワード認証でログオンする(S)

送信メール サーバー

このサーバーは認証が必要(M) 設定(E)...

OK キャンセル 適用(A)

【メールユーザ名 = アカウント名】、  
 【POP サーバ名 = 受信メール (POP3)】、  
 【SMTP サーバ名 = 送信メール (SMTP)】となります。  
 設定後、[設定動作確認] ボタンをクリックし、正しく接続ができることを確認してから保存して下さい

Outlook Express 以外のメーラー (Eudora, AL-Mail, Becky!等) をお使いの方も多少表現方法に違いがあるものの、Outlook Express と同等の設定が行われています。その設定を参照して [Shuttle] の通信設定を行って下さい。

また、1つの [Shuttle] を複数の方でご使用の場合、メール通信設定は、代表者による一度のみ行って下さい

④ 通信設定画面を閉じると [Shuttle] のメイン画面が開きます。

ここまでの設定が [Shuttle] の初期設定です。

#### 4. Shuttle の使用方法

以下がメイン画面となります。

分冊を選択 (①~⑤) 後、行う作業を選択 (⑥~⑧: 入力・修正・閲覧) します

TCCSG16 次案

施設名(管理番号): 【未設定】(AAA)

下の症例についての入力を行って下さい

TEST

(1) 入力する分冊を選択して下さい

進捗状況

① 入力時期未到来	② 入力待ち	③ 入力済み
見込導入療法-A 投与情報 見込導入療法-B 投与情報 見込導入療法-検査値-転写 早期療法-A 投与情報 早期療法-B 投与情報 早期療法-検査値-転写 有害事象_見込導入終了時 有害事象_研究終了時	リスク判定用データ 患者データ 有害事象_Day8	
⑤ イベント発生時入力	④ 修正依頼中	
試験-転写 有害事象-報告		

入力 ⑥   修正 ⑦   閲覧 ⑧   パスワード変更   終了

##### 4. 1 進捗状況

一つの症例に対して、5つの進捗状況が表示されます。その進捗状況に応じて、入力できる分冊や、修正できる分冊、閲覧のみできる分冊に分かれます。分冊とはCRFの一部です。全分冊をまとめたものがCRFにあたります。[Shuttle]では分冊単位にデータを保存し、確定、送信します。

- ① 入力時期未到来  
まだデータを入力することができない分冊です。試験が進むと入力できるようになります。リスク分類によっては、全く入力しないものもあります。
- ② 入力待ち  
現在入力が可能なCRFです。
- ③ 入力済み  
入力が完了し、データセンターに送信したものです。入力・修正はできません。

- ④ 修正依頼中  
入力済みであったが、データセンターから修正の依頼を受けた状態です。修正依頼項目について、修正が可能です。
- ⑤ イベント発生時入力  
いつでも入力することができる分冊です。この分冊は、いくつでも入力して、送信することが可能です。
- ⑥ 入力  
入力可能な分冊に対して入力作業を行ってください。入力箇所がない場合、自由記載欄にご記載ください。また、送信された分冊に入力の不備があった際には、お問い合わせをさせていただきます。
- ⑦ 修正  
データセンターから修正依頼があった場合のみ、修正待ちに表示され、修正・入力を行うことができます。
- ⑧ 閲覧  
進捗状況にかかわらず、全ての分冊に対して可能です。データの入力はできません。

#### 4. 2 実際の作業

- ① 入力作業を行う  
データの入力は記載漏れがないよう、ご注意ください。記載漏れがあった場合、お問い合わせをさせていただくことができます。

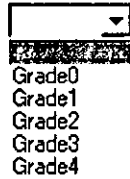
➤ テキストボックス：通常の入力欄です。

登録番号

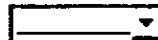
➤ チェックボックス：あてはまる場合はチェックを入れてください

通常報告	
<input type="checkbox"/>	予期されるGrade4の非血液毒性
<input type="checkbox"/>	予期されないGrade2、3の非血液毒性
<input type="checkbox"/>	プロトコル治療薬最終投与日から31日以降でプロトコル治療との因果関係が否定できない死亡
<input type="checkbox"/>	治療を中止するにいたった有害事象
<input type="checkbox"/>	永続的または顕著な障害
<input type="checkbox"/>	その他重大な医学的事象

- ▶ コンボボックス:複数のリストが表示されます。一番上を選択することで、空欄に戻すことができます。



- ▶ 日付: 日付を選択するタイプです。クリックする場所によって動作が変化します。年、月を合わせてから、カレンダーの日付を選択してください。消したい時は、日付をクリックして、Back Space キーで削除できます。



- ▶ ラジオボタン: 項目のリストを表示します。一旦入れたチェックは、変更はできても取り消しはできません。

はい  いいえ

- ▶ メモ: 複数行にわたって文章を入力できます

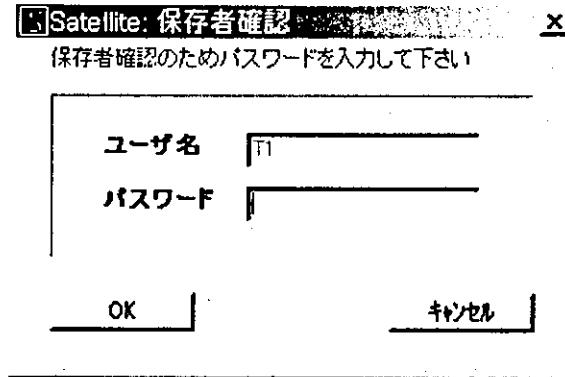
自由記載欄

メモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモ  
 メモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモ  
 メモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモ  
 メモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモメモ



② 保存する

データを入力したら、一時的にデータを保存できます。保存された分冊はいつでも入力・修正することが可能です。保存時に簡単な整合性のチェックが行われ、パスワードを要求されます。



Satellite: 保存者確認

保存者確認のためパスワードを入力して下さい

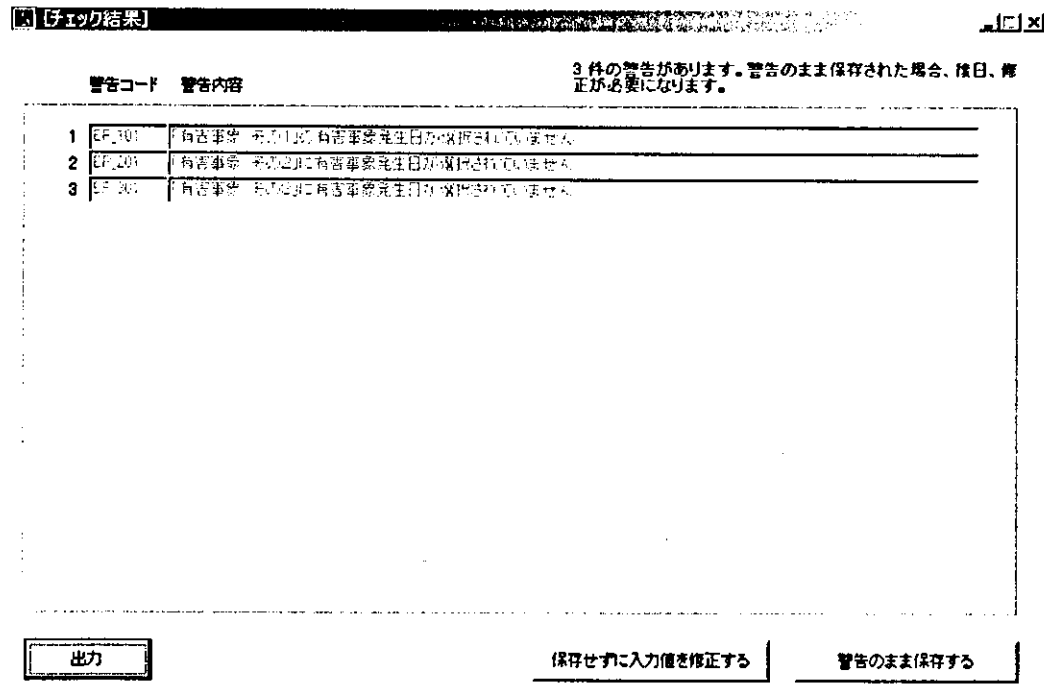
ユーザ名

パスワード

OK キャンセル

不備や整合性に問題がある場合、下記のような画面がでます。修正することをお勧めしますが、そのまま保存することも可能です。

「出力」では、notepad に警告内容を出力します。必ずしも出力する必要はありませんが、警告が多い場合、その後の修正作業がしやすくなると思われます。



チェック結果

3件の警告があります。警告のまま保存された場合、後日、修正が必要になります。

警告コード	警告内容	
1 EF_101	有害事業 その日に有害事業発生日が取得されていません	
2 EF_201	有害事業 その日に有害事業発生日が取得されていません	
3 EF_301	有害事業 その日に有害事業発生日が取得されていません	

出力

保存せずに入力値を修正する

警告のまま保存する

③ 確定する

[Shuttle]を使用するにあたって、「確定」は非常に大きな意味を持ちます。紙のCRFで言えば、医師の印鑑が押されたこと、もしくは自筆のサインがなされたことを意味します。確定は分冊単位で行われ、臨床試験依頼者（データセンター）の許可がない限り、医療機関においても修正できません。慎重に行ってください。確定にはパスワードが要求されます。

Satellite: 確定者確認

確定者確認のためパスワードを入力して下さい

ユーザ名

パスワード

OK キャンセル

警告

確定後は、臨床試験依頼者からの修正依頼を除き、入力データを変更することは一切できません。確定してもよろしいですか？

はい(Yes) いいえ(No)

不備や整合性に問題がある場合、下記の警告画面がでます。できる限り修正して再度確定を行ってください。警告のまま確定された場合には、問い合わせをさせていただきますので、ご了承ください。\*\*症例登録とリスク判定データの分冊に関しては、不備があった場合、確定できないようになっています。

チェック結果

警告コード 警告内容

3件の警告があります。警告のまま確定された場合、後日、問合せをさせていただきますが、どうぞご了承下さい。

警告コード	警告内容
01_000	【警告事項】 薬剤師の登録番号が重複して登録されています。
02_000	【警告事項】 薬剤師の登録番号が重複して登録されています。
03_000	【警告事項】 薬剤師の登録番号が重複して登録されています。

出力

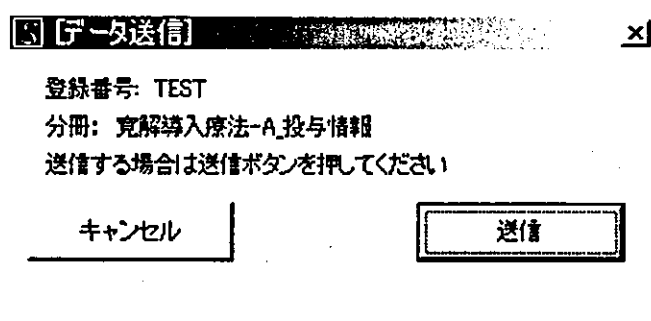
確定せずに入力値を修正する

警告のまま確定する

④ 送信する

確定された分冊をデータセンターへ送信します。確定後は、できるだけ早く、可能であれば、確定直後に送信するようお願い致します。

送信ボタンをクリックすると下の画面が表示されます。



送信ボタンをクリックすると、データの送信が開始されます。

送信が失敗した場合には、

- (1) インターネットに接続可能なパソコンであるかどうかを確認して下さい。
- (2) 通信設定（メイン画面）が正しく行われているか確認して下さい。
- (3) 通信設定がお使いのパソコンで有効であるものか確認して下さい。

例えば、医療機関内で行った通信設定の場合、医療機関内のパソコンからは正常に送信が可能であっても、別の場所からであると送信ができない場合があります。

⑤ 修正する

送信済みのデータをデータセンターでチェックし、記入漏れや不備を発見した場合、修正依頼を行います。修正依頼を行うと、修正依頼箇所の修正が可能になります。

TCOSG16次案

施設名(管理番号): 【未設定】(AAA)

下の症例についての入力を行って下さい

TEST

(1) 入力する分類を選択して下さい

選択状況

<p>入力時期未登録</p> <p>試験登録 患者データ</p>	<p>入力待ち</p> <p>試験登録 患者データ</p>	<p>入力済み</p> <p>リスク判定用データ</p>
<p>イベント発生時入力</p> <p>試験・試験 有害事象報告</p>	<p>修正依頼中</p> <p>有害事象_Dayd</p>	

戻る 修正 印刷 パスワード変更 終了

有害事象\_Dayd

登録番号: TEST

有害事象\_Dayd その1 | 有害事象\_Dayd その2 | 有害事象\_Dayd その3 | その他の有害事象

項目	Grade	最悪Gradeの日付	Grade1	Grade2	Grade3	Grade4
血液/骨髄			<LLN - 100 g/dl	80 - <100 g/dl	65 - <80 g/dl	<65 g/dl
ヘモグロビン			<LLN - 100 g/L	80 - <100 g/L	65 - <80 g/L	<65 g/L
			<LLN - 62 mmol/L	49 - <62 mmol/L	40 - <49 mmol/L	<40 mmol/L
白血球数			<LLN - $30 \times 10^9/L$	$\geq 20 - <30 \times 10^9/L$	$\geq 10 - <20 \times 10^9/L$	<10 $\times 10^9/L$
			<LLN - 3000 /mm <sup>3</sup>	$\geq 2000 - <3000 /mm^3$	$\geq 1000 - <2000 /mm^3$	<1000 /mm <sup>3</sup>

右上の「修正内容」をクリックすると、データセンターからの修正依頼内容を確認することができます。